

特別報告 平成 20 年度日系研修事業

パラグアイ共和国からの研修生が学ぶ 高齢者福祉におけるデイケアサービス

天津栄子¹, 細川淳子¹, 松平裕佳¹, 前田充代¹, 紺谷一十三¹

概要

石川県立看護大学と羽咋市社会福祉協議会は、JICA の要請を受け、日系高齢者社会支援の一環として、平成 19 年度より日系研修受け入れ事業に参加することになった。

移住地、南米パラグアイより来日した研修生 4 名の研修目的は、高齢者福祉におけるデイケアと介護予防について学び、パラグアイでその活動をシステム化していくことである。要旨は、実施した研修プログラム、成果報告、評価等についての一連の報告である。

はじめに

この研修事業は独立行政法人国際協力機構 (JICA) の依頼のもとに、石川県立看護大学と羽咋市社会福祉協議会の協同で中南米日系の社会支援の一環として平成 19 年度から開始された。移住から約 70 年を経て高齢者の増加が予測されるなか、パラグアイには国の福祉事業制度が整備されていないため、日系社会における高齢者福祉にかかわる人材の育成と地域のケアサービスのシステム化が重要な課題となってきた。今回の報告は平成 20 年度の研修事業を中心に述べてみたい。

1. パラグアイ共和国の概要と研修生 4 名の概略

パラグアイ共和国は南アメリカ大陸中央部に位置(図 1)し、ブラジル、ボリビア、アルゼンチンに囲まれた内陸部で、面積 40.7 万 Km、人口は約 536 万人、首都はアスンシオンである。

言語はスペイン語 (公用語)、グアラニー語、通貨はグアラニ (100 円は 4000 グアラニ)、農牧と林業が主で綿花や大豆、牛肉、コーヒ、木材が主な輸出品である。移民の始まりは 1935 年、11 家族 81 名で、1941 年 12 月太平洋戦争が勃発し、翌年 1 月にはパラグアイと祖国日本が国交を断絶し移民の言動の制約や移住地の管理が厳しくなる。1953 年から移民が再開し、現在の日系人口は 7000 人、日系人高齢者は 1000 人 (14.3%) である。

平成 20 年度の研修生は、日系一世・二世の 30 代～50 代の女性 4 名で、出身地はピラポ市、イグアス市、ラパス市、エンカルナシオン市と地域別である。それぞれの地域での役割は、日本人会婦

人部の部長や日本人会サロンでの福祉活動、日本語教師、大学の心理学科在学中、会社員等さまざまである。本研修における JICA の資格要件は、日本語会話能力があること、福祉業務経験または研修後福祉業務に従事すること、55 歳未満の 3 点が挙げられている。

2. 研修プログラムの目的・研修内容について

研修目的は、高齢者の尊厳を支え、健康な日常生活の自立を維持・支援するためのデイケアと介護予防の実践について学び、その機能や活動をパラグアイのそれぞれの地域においてシステム化していくことである。この目的達成のためには講義、ゼミ、アクションプランの作成過程を主に担う看護大学と地域の高齢者福祉に優れた現場で見学、演習、実習等の実践的な研修指導を担う羽咋市社会福祉協議会とが協同連携していく必要がある。

研修プログラムの作成にあたり検討したことは、平成 19 年度の研修プログラムを基に研修者の個別目標にも配慮し、目的に沿った講義・演習・実習内容であること、新しいプログラムをいれる、看護大学と羽咋間の通学時間を配慮したプログラムであること等について関係者間で話し合いを重ねた。

県立看護大学での研修は以下の内容であった。

- | | |
|---------|----------------------------|
| レクチャー 1 | 石川県立看護大学 2 年生とパラグアイ研修生との交流 |
| レクチャー 2 | 地域における認知症予防活動 |
| レクチャー 3 | 地域の実情に適したケアのシステム化 |
| レクチャー 4 | 高齢者の日常生活自立とケアの視点 |

¹ 石川県立看護大学

- レクチャー5 在宅介護
レクチャー6 地域の実情に適したケアのシステム化への対応
レクチャー7・8 日常生活機能を支えるリハビリテーション
レクチャー9 異文化における高齢者と家族関係について

羽咋市社会福祉協議会での研修は以下の内容であった。

1. 元気高齢者への支援
老人会活動（いきいきサロン）、老人福祉センター活動（筋トレ教室、多様な趣味活動）
2. 要注意高齢者への支援
地域におけるサロン・たまり場活動、認知症予防通所事業（ミニデイサービス）
運動器機能向上事業（体力維持改善教室、筋トレ教室）、訪問活動
もしもし電話訪問相談事業、訪問介護
3. 寝たきりや認知症への支援
介護保険サービス事業（訪問看護、訪問介護、訪問入浴、通所サービスなど）
4. 家族への支援。
家族介護教室、介護者の会、健康介護相談
5. 介護予防事業の実践活動（神子原地区）
高齢者ケア未来モデル事業として実施された地区に実際に入り込んで、実践活動を把握して、研修者がパラグアイの地区において可能な活動計画を立案する。

以上の全研修内容を実施する研修期間は、平成20年6月20日～8月26日までの68日間であり、この間には県外（愛知県のナーシング・ホーム気の里、2泊3日）への研修旅行も含まれている。

3. 研修結果：アクションプランの発表

4名の研修生が研修を終え、祖国パラグアイ日系社会における高齢者福祉への支援に対して、夢

と希望を抱いて実現させたいと考えているアクションプランを表1に示す。これは研修最終日に研修事業報告会で発表した内容である。

4. 研修内容の評価について

JICAの研修コース評価 Questionnaire(5点～1点の5段階)では、研修内容がパラグアイでの地域ニーズに合致していたかについては4名が appropriate 5点であった。

また、到達目標達成度は、3名が fully achieved 5点、1名が4点であり、研修で得た内容がパラグアイで活用可能かどうかについても同様に3名が5点、1名が4点であった。

つまり、今回の研修内容がパラグアイでの日系高齢者福祉のデイケアと介護予防のプログラムとして有用であると評価したのは、30カ所以上の現場で実際に活動を見て、参加して学び“これはパラグアイでも必要であり、使える”と、実感したからであろう。

まとめ

JICAからの要請を受け、昨年に引き続きパラグアイ日系社会の高齢者福祉における人材育成とサービスのシステム化をはかる研修事業である。研修生は4名で研修内容はデイケアサービスと介護予防を中心とする知識と技術の習得および羽咋市の多様な地域サロンでの実習を主とするものである。

研修のプログラムの評価については、今後現地訪問による調査も必要であろう。（平成20年8月末に帰国した研修生からのメールによると、ラパス地域でデイケアサービス施設が建設中であるという。）

(受付：2009年1月9日)

Day care service in senior citizens welfare learned by trainees from the Republic of Paraguay -The training program for Japanese Descendants in 2008-

Eiko AMATSU, Junko HOSOKAWA, Yuka MATSUDAIRA
Mitsuyo MAEDA, Hitomi KONYA

表1 研修生の研修目標とアクションプラン

	研修生A (イグアス市)	研修生B (ラパス市)	研修生C (エンカルナシオン市)	研修生D (ピラポ市)
研修目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防について学び、「なのはなサロン」の活動に活かす ・認知症高齢者への接し方を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情に適したケア、高齢者の気持ちに合わせた支援、認知症高齢者と、それを抱える家族へのケアについて学び現地の高齢者介護に役立てること 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションを学ぶ ・認知症を学ぶ ・介護予防を学び、「いちご会」での活動に役立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の認識を広め福祉活動の活性化 ・高齢者に対応し、訪問介護で必要とする知識を学ぶ
アクションプラン	<ul style="list-style-type: none"> ①元気高齢者・虚弱高齢者を対象別にデイサービスを開き、その対象に合った介護予防のレクリエーションを行う ②認知症について学んだことを「なのはなクラブ」の勉強会を通して伝えていく 	<ul style="list-style-type: none"> ①高齢者福祉グループを対象に認知症についての勉強会を行い、さらに地域に向けて認知症の知識を広める ②虚弱高齢者を対象に認知症予防プログラムを取り入れ、ミニデイサービスの内容の充実を図る ③元気高齢者への認知症予防プログラムの実施と認知症についての学習会を行う ④認知症高齢者を抱える家族へ知識の普及や集いの場などを作り支援活動を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ①いちご会(福祉活動ボランティアグループ)メンバーを増やす ②研修で学んだこと(リハビリテーション、認知症予防、介護予防)を活かし、勉強会を継続させ、いちご会メンバーの力を高める ③いちご会の活動内容(健康講座、サロンの継続)を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> ①福祉活動(サロンづくり、ひまわり会)のシステム化を目指すため、活動内容の充実や予測される課題に取り組むため計画を立てるなど、できる事を一歩踏み出す ②モデル活動として身体機能が低下している方やあまり外に出ない方を対象に家庭訪問を行う
研修のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ①実習で同行訪問や、施設実習を通して職員やヘルパーの接し方を見て大きな学びとなった ②元気である事の大切さを再確認し、ボランティアを増やしていきたい ③福祉活動で高齢者を地域で支え合う 	<ul style="list-style-type: none"> ①いろいろな講義と現場での実習がつながり、その両方の大事さがよく分かった ②ラパス地区へ帰ってやりたいこと <ul style="list-style-type: none"> ・ミニデイサービス ・サロン活動 ・認知症という病気を地域の人に分かってもらう <あせらず・ゆっくり・やさしい気持ちで> 	<ul style="list-style-type: none"> ①リハビリ実習を通して、早期発見・早期治療と早期リハビリの大切さを学んだ ②認知症について自分自身が知識を深め理解することができた 	<ul style="list-style-type: none"> ①サロンづくりやひまわり会などの福祉活動を中心に地域の実情に適したケアのシステム化を目指す ②モデル活動として家庭訪問を行い、対象者の運動機能向上、心のケアを行う
学んだ一言	一人の百歩より、百人の一步	目配り・気配り・心配り	1人よりも…2人の力	よき理解者 そっと手をさしのべられる人に

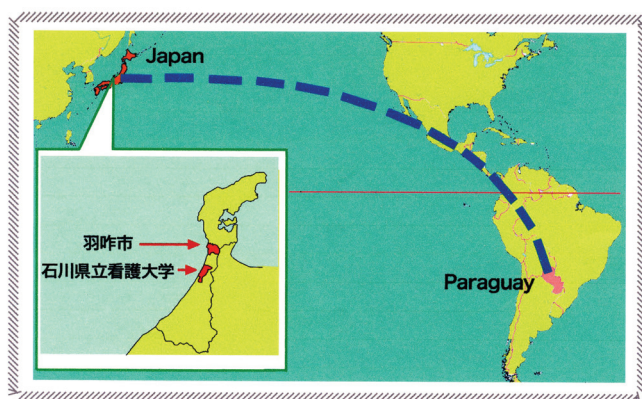


図1 パラグアイ共和国



アクションプランの作成



いきいきサロンでの研修



閉講式